

乳がん 自己検診が大事



乳がんについて知識を深めた学生向けの講演会

一輝医師と伊藤みずえ看護師の2人が講師を務め、早期発見の重要性と予防法など説いた。

教養セミナーの一環として毎年実施。女性特有の病気と思われがちな乳がんだが、男性でも発症することがあるため男女の学生と一緒に学んだ。

小室医師は1994年ごろから女性が発症するがんの1位になり、死亡率が高いことなどを紹介。また、婦人科系の病気は20代後半から40代にかけて増えていくので「若いころからの検診が大事。また、予防としては適切な体重管理と運動が大切」と訴えた。

伊藤看護師は触診のやり方などを説明し、「自己検診はとても大事。早期発見だと9割は死なない。自分だけでなく家族にも伝えてほしい」と呼び掛けた。

函短大で学生向け講座「早期発見を」

函館短大で12日、食物栄養学科の1年生95人を対象にし、国立病院機構函館病院の小室

(小杉貴洋)